

2025年7月4日

関係各位

株式会社パテント・リザルト

【エンジニアリング業】他社牽制ランキング 2024 トップ3は栗田工業、JFEエンジニアリング、オルガノ

弊社はこのほど「エンジニアリング業業界」の特許を対象に、2024年の特許審査過程において他社特許への拒絶理由として引用された特許件数を企業別に集計した「エンジニアリング業業界 他社牽制ランキング 2024」をまとめました。

この集計により、直近の技術開発において競合他社が権利化する上で、阻害要因となる先行技術を多数保有している先進的な企業が明らかになります。

集計の結果、2024年に最も引用された企業は、1位 **栗田工業**、2位 **JFEエンジニアリング**、3位 **オルガノ**となりました。

【エンジニアリング業業界 他社牽制ランキング 2024 上位10社】

順位	企業名	引用された特許数
1位	栗田工業	214
2位	JFEエンジニアリング	203
3位	オルガノ	101
4位	日鉄エンジニアリング	79
5位	東レエンジニアリング	76
6位	東芝プラントシステム	75
7位	水ing	70
8位	日立パワーソリューションズ	64
9位	神鋼環境ソリューション	55
10位	メタウォーター	46

【ランキングの集計対象について】

日本特許庁に特許出願され、2024年12月までに公開された全特許のうち、2024年1月～12月末の期間に拒絶理由（拒絶理由通知または拒絶査定）として引用された特許を対象に、抽出・集計をしています。

また本ランキングでは、権利移転を反映した集計を行っています。2025年5月時点で権利を保有している企業の名義でランキングしているため、出願時と企業名が異なる可能性があります。

なお各企業の業種につきましては、総務省の日本標準産業分類等を参考に分類しています。

1位 **栗田工業**の最も引用された特許は「飲料水の充填装置」に関する技術で、大日本印刷の計5件（のべ10回）の審査過程で引用されています。このほか「無人移動ユニットを用いた巡回点検システム」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、クボタなどの計5件（のべ7回）の拒絶理由として引用されています。

2024年に、栗田工業の特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はオルガノ（39件）、次いで水ing（8件）です。

2位 **JFEエンジニアリング**の最も引用された特許は「荷役機械の操作と保守作業を支援する方法」に関する技術で、三菱電機などの計3件（のべ6回）の審査過程で引用されています。このほかには「長期間経済的な連続運転を可能とする水ろ過処理装置」に関する技術が引用された件数の多い特許として挙げられ、クラレの計3件（のべ3回）の拒絶理由として引用されています。

2024年に、JFEエンジニアリングの特許によって影響を受けた件数が最も多い企業はJFEスチール（8件）となっています。

3位 **オルガノ**の最も引用された特許は「粉末イオン交換樹脂と粉末活性炭を併用し、水処理性能を向上させる水処理装置」に関する技術で、住友重機械エンバイロメントなど計3件の審査過程において拒絶理由として引用されています。

2024年に、オルガノの特許により影響を受けた件数が最も多い企業は栗田工業（13件）、次いで野村マイクロ・サイエンスとWOTA（いずれも6件）となっています。

4位 **日鉄エンジニアリング**は「高力ボルト摩擦接合継手」、5位 **東レエンジニアリング**は「成形品の特性を精度良く推定できる樹脂成形解析方法」が、最も引用された特許として挙げられます。

また弊社では、ランキングデータを下記の通り販売しています。

【エンジニアリング業業界 他社牽制力ランキング 2024 データ】

▶納品形態：以下のデータを収録したエクセルファイルをメールで御納品※

（※データ一式を収録したCD-Rでの御納品をご希望の場合はご相談ください）

- ・ランキング トップ30社：本業界の被引用件数上位30社のランキング
- ・被引用件数 トップ100件：本業界の被引用件数上位100特許、及び引用先の特許との対応

▶価格：50,000円（税抜）

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社パテント・リザルト 事業本部 営業グループ

URL：<https://www.patentresult.co.jp/>

e-mail：info@patentresult.co.jp